



(社)全高P連会報

社団法人全国高等学校PTA連合会（連絡先）〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1（奥田ビル）TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
 発行人 高間専逸 URL <http://www.zenkoupren.org/> eメール info@zenkoupren.org



平成二十一年度第二回総会が二月十三日に開催され、二十二年度の事業計画および予算案が審議されました。また、国が進める授業料の無償化や、これまで文部科学省の委託として行われてきた事業の継続が危ぶまれるなどの諸問題が起る

中での総会でもあり、高間専逸会長より、その対応と今後の方針などの説明があり、討議がなされました。以下、今、全高P連が抱える諸問題について、ここにその動きをお伝えします。

平成二十一年度第二回総会開催

子どもたちをしっかりとサポート

芯のぶれない全高P連

高校の授業料無償化は、保護者の減収や失業で、授業料が払えなくて退学せざるを得ない生徒もいるという現状において、学ぶ機会が確保されるという点で、私たちとしては歓迎すべきことです。しかし一方で、これまで授業料とともに徴収されてきた諸経費の納入にかかる経費が大きな問題となっています。また、高校が義務化されたところと勘違いされる危険性、所得水準に関係なく一律支給の制度が塾通いなどを誘発し学力の二極化につながるという懸念、公立私立間の格差が広がることへの心配、病气など本人の責任とはいえない留年者の授業料のことなど問題点があります。高校教育の充実のためには、授業料の無償化以外にもまだまだ考えなければならぬ問題も多く、今後文部科学省、各都道府県市教育委員会などと連携

を取りながら対応を進めていく必要があります。また今、文部科学省がいうところの委託事業は全高P連事業の推進に必ずしも一致しません。健全育成事業は、計画・成果の面で検討の余地が残されており、今後協議していきます。また、全国大会は自己財源で推進することになりました。

今の社会状況や国の教育政策への対応など、さまざまな課題があります。私たちは活動の目的である「子どもたちをしっかりとサポートする」という基本姿勢を守り、芯のぶれない全高P連として活動をすすめていきます。

会員の皆さまの、さらなるご理解とご協力を心よりお願いします。

会長あいさつ	1 頁
シリーズ青春白書 全国からの便り一輝く姿がここにある一和歌山県立新宮高等学校	
「良き伝統を継承し未来に向かって可能性を追求する新宮高校」	2 頁
富山県立富山高等学校	
「創校の志『学びたき者集う』	
校訓『慎重敢為を今日に継承』	3 頁

今号の主な内容

子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業「やる気ない、目標ない、授業わからない」	3 ない高校生の現状	4～6 頁
高校生と保護者の進路に関する意識調査		7～8 頁
シリーズ視点『『夢よ、煌け！』～夢に終わりはない～』		9 頁
平成22年度事業計画		10 頁
各委員会報告		11 頁
平成22年度 全高P連全国大会 東京大会ご案内		12 頁

全高P連HPでもご覧になれます。 URL : <http://www.zenkoupren.org/>

和歌山県立新宮高等学校

「良き伝統を継承し未来に向かって
可能性を追求する新宮高校」

【教育目標】

知・徳・体のバランスのとれた人格形成を目指すとともに、地域社会に積極的に貢献する人材や次代の日本社会・国際社会で活躍するリーダーの育成が教育目標です。



【沿革】

本校は百年有余の歴史と伝統を有し、熊野地域の教育・文化の核として存在してきました。卒業生は約三万五千名を数え、各分野で活躍する有為な人材を多数輩出しています。昭和二十三年の学制改革により、県立新宮中学校、県立新宮工業

【進路】

学校、県立新宮高等学校の三校を統合再編成し、県立新宮高等学校として創設されました。生徒たちは、「質実剛健」を校訓とし、校是としての「文武両道」を実践し、自由で清新な気風に満ちた校風と県下有数の施設・設備が整った環境の中で、勉学やクラブ活動に日々励んでいます。平成十二年には創立百周年記念式典を挙行。平成十四年度より授業時間の確保と学習指導要領に対応した教育活動・学習活動の効率化を図り、二学期制を導入し、現在六十五分授業を実施しています。

【進路】

進路実現のために一年次から三年次まで計画的・段階的にきめ細かな進路指導を行っています。一年生は、希望と入学後の実力テストをもとに三つの類型に分け、進路アセンブリーや総合的な時間におけるキャリアアゼミナールなどを実施し、早期からの進路意識

【特色ある取組】

の向上をめざしています。二年生は、進路講演会・大学見学会を実施し、進路意識の確立をめざします。三年生は、日常補習や学年末の特別時間割により、それぞれの進路希望に応じた進路対策を行っています。さらに全学年で土曜開放や夏期集中補習を実施するなど、学力向上をめざした取り組みを行っています。

【特色ある取組】

毎年十二月に実施している「小雲取越えロングハイキング」は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された由緒ある歴史的な参詣道の一部「小雲取越え」を、一学年の生徒と保護者・一般参加者・教職員がともに歩く行事です。心地よい汗を流して古

(いにしえ)の道「熊野古道」を体感しています。希望者を対象とした夏季休暇中のオーストラリア語学研修では、ホームステイをしながら、語学学習や現地の学生・住民



との交流活動などを行います。国際性豊かな人物の育成を目指しています。

また、台湾の国立彰化女子高級中学と交流し、友好関係を築いています。

【学園生活】

新宮高校には、体育・文化あわせて三十四のクラブがあり、毎年複数のクラブが、全国大会・近畿大会等に出場しています。

また、彩雲祭(文化祭)や体育祭では、青春のエネルギーを燃やし、生き生きと楽しく充実した学園生活を送っています。

【振学会(P.T.A.)】

本校P.T.A.は、昭和二十三年にP.T.A.育友会として発足し、昭和三十年に社団法人新宮高等学校振学会に改組して、現在に至っています。その運営の一つとしてあげられるのが、「清水昭八奨学金」の運営です。この奨学金は、本校卒業生の清水昭八氏からいただいた寄付金をもとに、在校

生の中で学業・文化・体育等において顕著な成績、実績を残した者に与えられます。毎年該当者を審査・決定しています。



振学会(P.T.A.)の組織は、三十人の理事からなる理事会と各クラスの代表者の集まりである学級委員会で構成されています。理事は、総務広報委員会、環境・厚生委員会、人権教育委員会、進路対策委員会、健全育成委員会、国際理解委員会、体育文化後援会の七つの

いづれかに所属することになっており、学校側と協力しながら、「生徒の人格向上と福祉の増進を図ること」を目的として運営に当たっています。

【振学会・前期の活動】

四月・五月に振学会(P.T.A.)総会、学級委員会、学年部会を開催。六月の

彩雲祭(文化祭)では、生徒達の食物バザーに混じって「くじらの竜田揚げ」の振学会食物バザーを出店しています。



七月の進路指導部と共催の進路講演会では、外部講師を招いて保護者の進路意識と理解の向上を目指しています。また、子どもたちの学びの場を整備するために行われている新高グリーン作戦では、校内外の清掃へ多数の保護者が参加して、環境整備に汗を流します。

【振学会・後期の活動】

生徒を取り巻く課題解決のために毎年二月に実施している教育懇話会のバスセッションでは、保護者と教員が生徒を取り巻く課題解決のために活発な情報交換を行います。

また、振学会直営である「厚生部」(購買部)では、文房具や飲料物等を市価よりも安く販売し、その利益を生徒に還元しています。

「らの便り
ここにある」vol.9

ひたすらに頑張る子どもたち。をもって導く先生たち。Aの仲間の姿をお伝えします。

「青春白書全国か 一輝く姿がこ

未来を見つめ、夢を追い求め、
その子どもたちを熱意
そしてPT

【創立百二十五年の伝統】

本校は一八八五年（明治十八年）本校の前身、富山県中学校として開校しました。現在は各学年普通科六クラス、理数科一クラスです。



西中庭から校舎を臨む

一九八五年（昭和六十年）の創校百周年には、同窓会の協力を得て、九十五席の学習室をもつ百周年記念館が建設されました。樹齢百年を超える杉木立「太郎丸の杜」

富山県立富山高等学校

創校の志「学びたきもの集う」

校訓「慎重敢為」を今日に継承

に囲まれた静かな環境の下、この学習室で、年間を通じて多くの子どもたちが、目標の大学を目指し勉学に励んでいます。諸先輩の勉学の熱い思いが受け継がれている場でもあり、子どもたちには格好の研鑽の場となっています。



百周年記念館 学習室

【教育目標】

「学びたきもの集う」という創校の志と校訓「慎重敢為」を継承し、心身ともに健全で、国際社会の発展に寄与する人間の育成を目指しています。

【理数科】

文部科学省指定の「スーパーサイエンスハイスクール」の三年間の研究成果を生かし、創造性・独創性を育む様々な研究

プログラム（立山実習・県内大学実習・筑波科学研修）を実施しています。



立山実習

【部活動】

ほとんどの子どもたちが加入しており、短い練習時間の中で活発に活動しています。今年度は、山岳部（十年連続）、放送部、囲碁・将棋部が全国大会に出場しました。

【PTA活動】

(1)子どもをよく知るための「講演会」の実施
今年度は富山県の精神的シンボルであり、日本人の思想形成に大きな役割を担った立山をテーマに、「先人に学ぶー立山に向き合う人々ー」と題して、富山県立山博物館館長米原寛先生による講



平成21年度 講演会

演会を行いました。この他「望ましい食生活と学習」と題し、保健医学と調理（和漢薬膳）など、毎年講演会のテーマを定め、それぞれの分野から専門家を招き、役員及び先生方の研修の場としています。

(2)学校での子どもたちの活動を支えるために

すべての生徒が富山高校の生活に適応し、自分について肯定的な気持ちをもつて過ごすことができるよう、新たに平成二十年度より『学習環境整備費』を設け、学習及び教育相談体制の充実のために支援しています。

①学習相談体制の充実
「チューター制」の導入

一年生の学習についての相談をサポートするため、現役大学生（富山・金沢・大阪・東京・一橋大学等）を講師として、英国数を中心に基礎学力

の定着を図ることを目的に、年間六回程度講座を開設しています。年齢的にも近いため、相談しやすい雰囲気があります。



チューター制 大学生による授業

②教育相談体制の充実

スクールカウンセラーを囲んで、常時心に課題を抱える子どもたちにとって対処していくかについて話し合っています。

今年度一学期は「面接の場面与实际に使える力ウンセリング的対応」と題し、富山大学心理学教室の仲嶺裕子准教授に、二学期は「対人コミュニケーション」の基本」と題して、金沢工業大学大学院の塩谷亨教授（臨床心理士）による研修会を行いました。三学期は、保護者の研修会としてスクールカウンセラーの岡田浩子先生による講演会を実施し、褒め言葉（リフレーム）が相手を成長

させ、褒めあえるような集団を作ることが大切であること。また、子どもの得意なこと、好きなことを伸ばし、自己肯定感を育てることの重要性を学びました。

(3)進路選択の手助けに「キャリアアガイダンス」
社会の第一線で活躍する本校の同窓生及び保護者が講師となり、夏休みに二年生全員を対象として実施しています。



スクールカウンセラーの講演会
「子どもの心に出会うとき」

【おわりに】

本校PTAでは、今後子どもたちが心の悩みやストレスとうまくつき合いながら、各自の進路を目指していきける強い意志をもち、社会の変化に対応できる逞しい人格を形成するため、望ましい家庭環境づくりに努め、より一層学校との連携を密にし、支援をしていきたいと考えています。

子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業

「やる気ない、目標ない、授業分からない」3ない高校生の現状

全国高等学校PTA連合会調査結果の報告と今後の展望

京都大学大学院医学研究科 准教授 木原雅子

本年度は過去三カ年にわたる調査研究を踏まえ、「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実事業」をまとめてまいりました。

全国の生徒を対象に総数六一六四人にアンケート調査を行い集計分析するとともに、五地区においてシンポジウムを開催し、現代の高校生がかかっている問題、高校生にかかっている問題、高校生にどう解決していくのか研究・討議いたしました。

去る二月十三日に開催された全国会長事務局長会議での京都大学大学院木原雅子准教授の講演内容の要旨・資料をもって事業報告とさせていただきます。

健全育成委員会委員長

深澤資弘



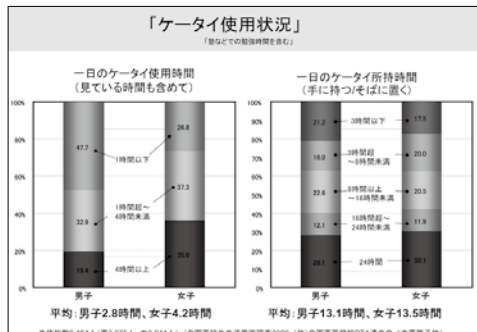
調査結果を一言で言うと、「やる気ない、目標ない、授業分からない」3ない高校生」という実態が出てきました。

・高校生の現状

学習状況は塾の時間も含めて全く勉強していない子どもたちが、男子が五十四％、女子が四十五％。半数前後に達します。そして、学習時間の平均は男子が一・六時間、女子が一・七時間です。では、授業についていけない子どもたちの割合はどれくらいなのか。授業についていけな

いことがよくある、毎回ついていけないという子どもたちが二割から三割います。ついていけなくなった時期はいつごろからかは、小学校で既にいていけなくなつた生徒が一割弱います。そして中学校一、二年生が十五％ぐらい。高一がピークで、次が中学校二年生です。

子どもたちの携帯の使用状況は携帯を一日中離さない。「携帯とともに生きる人々」と私は呼んでいます。しがみついて生きているように感じます。その携帯の使用時間を見ている時間も含めて平均しますと、男子の一日の使用時間は二・八時間です。女子の使用時間は四・二時間です。先ほどの家庭学習と比べると、二倍を超える時間、携帯にさわる時間に割っています。



保護者の携帯の使用状況を子どもたちに聞いてみました。子どもが親に話しかけているときに保

そして携帯の所持時間は一番多いのは二十四時間で、おふろに入るときに服の上に置いた以外は、寝るときにも抱きしめて寝ているという感じ。です。全然使っていない、少ない子もいますので、平均しますと男子十三・一時間、女子十三・五時間という結果です。

護者の方が携帯でメールをしていることがありましかつという質問で、よくある、ときどきあるが二十五％前後あります。そして、よく携帯を使っている保護者の子どもは、子ども自身も携帯をよく使います。こういった状況にある子どもは親への信頼感が低いという結果が得られています。

・高校生の意識・精神状態
打ち込んでいくもの、目標が何かという質問に対し男子六十六％、女子は五十六％、打ち込んでいくものがあります。何か目標はあるかは大体七割近くの人があると答えています。次には「一番ストレスを感じていることは何ですか」という質問をすると、一番は勉強でした。勉強していないのに思いますが、二番目に男子はストレスなしという、とても平和な状

況で生きています。女子は、友達との関係です。男子は、次は部活で悩んでいます。女子は二番目が友人関係、三番目が部活になります。

人生に満足しているかについてという質問をしたところ、やり直したいと言っている子どもが男子の四十一％、女子の四十七％。わからないままを含めると、七割から八割近くが満足していないグループに入ります。

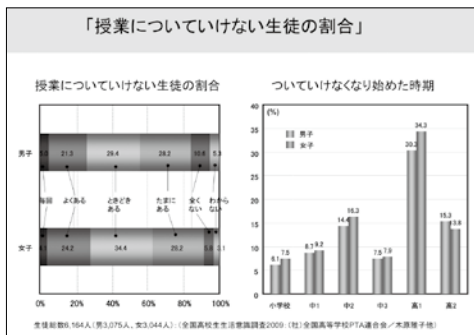
そして、人生をやり直せるとしたらいつに戻りたいかは、小学校の入学前に戻りたいと思っている生徒が二割ぐらい、小学校の低学年に戻りたい人が十％ぐらい、小学校の中学年と高学年が割ずつぐらいます。また、中学校に戻りたい人が半分ぐらいます。戻って何をしたいのかというと、勉強をやり直したい

ということでした。やり直したいと思った時期にやり直せるようなサポートが、家庭でも学校でも地域でもできたらいいと考えています。

自分に対する評価は、

全体としたら自分のことが好きか、自分にいいところがあるか、自分はずまらない人間だと思ふところがあるかの三つを聞きました。とても嫌い、あまり好きじゃないというネガティブなこと、あるいは自分にいいところは全くない、ほとんどないと言っている子どもたちは男子よりも女子のほうが多いです。自己評価で見ると、女子の自己肯定感のほうが低いという結果が出ました。次に、高校生の意欲ですが、最近何に対してもやる気が出ないことがあるか、あるいは何に対しても面倒だと思ふところがあるかは、かなりある、よくあるという子どもたちの割合が三十%から四十%もいます。かなりの人たちがやる気をもっていないということがわかりました。

授業についていけない生徒と、授業についていけない生徒を比較してみると、授業についていけない生徒たちが四分の一、そして時々ついていけないという生徒たちも合わせるとすごい数になります。



その子たちの小さい頃はどうか、ゲームをしていない子のほうが授業についていける割合が高いです。また、ゲームをしているときの脳の状態ですけれどもほとんどの部分が活動していません。これが文章を書いていたり、手紙を書いているときは活発に活動します。脳が活動しない状況というのが、ゲームをしているときの状況だということでした。高校生の今の状態

を見てみますと、学習時間が長い人ほどちゃんと授業にはついていっています。携帯の使用時間との関係は、携帯の使用時間が短いほど授業についていけません。携帯の使用時間が長いほどいろいろな問題と関連していきませんが、授業についていけないだけではなくて、性的にすごく活発な状況であったり、万引きとかいろいろなものとの関係をしていきます。

・生徒の自立と勉強

生活の自立度と勉強についていけないとの関係は、料理ができる、自分で起きると言った、生活が自立している生徒たちのほうが授業がわかっています。多分、自分の生活をも自分で律することができ、きちんと生活力を持っている生徒たちだと思えますが、そういった状況が今回の結果から見えてきました。

また、子どもたちの精神状態です。全体として見たら自分のことが好きか、自分はずまらない人間だと思ふところがあるか、これは自己肯定感が高い生徒ほど勉強についていっています。それは勉強についていっているから自己肯定感が高いのかもしれないし、因果関係はわかりません。

意欲も同じです。意欲のある生徒ほど勉強についていっています。勉強についていっているから意欲があるのか、それはどちらかわかりません。

人生の満足度では、満足している生徒ほど勉強についていっています。やり直したいという生徒たちは授業についていけない、勉強をやり直したいと思っているみたいですから、ここで何かサポートができれば子どもたちの能力をもっと上げることができるとも思います。

やる気を出した生徒と云うのは、半年、一年間でびつくりするほど変わります。大人になってから短期間にそこまで変わることはとても難しいけれど、子どもたちはすごい力をもっていると思います。その子たちが本気になれば、全く別人のように変わるぐらい伸びますので、伸びるチャンスに気づいてあげて、子どもたちがもがいているときに支援できるようにシステムができればと願っています。

周囲との人間関係では、本当に信頼できる友達がいる人のほうが授業についていっています。そして、信頼できる先生がいる人のほうが授業についていっています。あと、本当に困ったときに守ってくれる大人がいる人のほうが授業についていっています。

保護者を信頼していませんかという質問では、保護者への信頼関係が高いほど授業についていっています。

問題をおこす子どもたち授業についていけない子どもたちだけが問題なのかということを逆の視点から見ると、授業についていっている成績のいい子は大丈夫なのか、何の問題もないのかという疑問が出てきます。ここに大きな落とし穴があって、実はすごく問題があります。それがなかなか表面化しないところ、問題だと思ふところ、万引きや、無防備な性行動とか、薬物とか、いろいろな割合を調べてみますと二つピークがあります。一つは、成績が真ん中よりちょっと下目の群に、もう一つは、成績トップクラスの生徒たちのところにピークがあります。学校では成績が余りよくない子どもたちのほうに問題が固まっていると思われがちですが、そうではなくて両方にあります。特に進学校ですと、校長先生もそういうことにお気づきになりませんし、もちろん、親も知りません。勉強についていけて、成績がよく、そして問題を起している子どもたちを分析してみました。男子と女子で特徴が違います。成績がよくて問題を起している子どもたちの男子の方は自尊心が極めて高いです。もしかしたら自己肯定感が高いというよりも自信過剰だという感じに見えます。そして、とても活発な行動です。

これとは対照的に、成績がよくて問題行動を起している女子のほうには自尊心はとても低く、様々な問題を起している

ます。これらの男子と女子に共通している点、つまり成績がよくて問題を起こしている生徒たちに共通している点は、保護者への信頼感がすごく低いところ、男女とも共通しています。自己肯定感などでは男女で違っていますけれども、保護者に対する信頼感が極めて低いという点は同じでした。

そういった全体を見ると、一番は保護者への信頼感というのが大きく関係しているのかもしれない。

・心に残っている言葉

ここからは、これまで子どもたちが親から言われた言葉で心に残っていることを説明します。

私は「心に残っている言葉を書いてください」と書いたのですが、感謝の言葉のような肯定的な言葉を予想してこの問いをつくりました。しかし、男女とも回答してきた子どもたちの十%ぐらいはともて肯定的な中身でした。六千人の調査ですと六百人になりますので、かなりの数の子どもたちです。その子どもたちが何と

言われたか。保護者から言われて心に残った言葉。男子では、「おまえが踏ん張るときなんて、トイレのときだけだろう」「これはあんまりだ」と思います。「餓鬼のくせにうるせえ、死ねよ」、親にそう言われたらどうやって生きるんだろうと思います。「あんたがいるから不幸になった」「おまえにいいところなんて一つもない」、完全

にこの子の存在否定をしていますね。そして、「おまえは人間のくずだ」「おまえなんか産まなきゃよかった」、これは母親が言っていると思います。が、このような言葉で男子生徒が傷ついています。五、六個しか事例を出していませんけれども、その何百人分かで重なる部分を出しています。多くの子どもたちが同じようなことを書いていました。

そして、女子。「あんたを選んで産んだわけじゃない」、これは子ども側も選んで生まれてきたわけじゃないと言いたいと思います。「殺してやろうと思った」、こ

れもひどいと思います。「あんたなんか期待されていい」「死ねばいいのに」「こんな子を産まなければよかった」「あんたは生きる価値がない」「死ね」「うざい」「どこか行け」、これはすごくひどい言葉ばかりでした。このような言葉が子どもたちの心にずっと残っていました。

こういった言葉ばかりではなくあとの九割の子どもたちもいいことを書いてくれました。保護者にしてもらって感謝していることは、男子の三分の一、女子の半分は感謝の言葉を書いていました。

男子、「何もかも感謝です」「自分を産んでくれてありがとう」「十六年間、一生懸命育ててくれたこと」「迷惑かけても見捨てずに育ててくれたこと」「働いて自分たちを養ってもらっていること」「学校に行かせてもらっていること」「感謝していること、弁当づくり」「毎日御飯をつくってくれること」「つらいとき一緒に泣いてくれたこと」「本気で叱ってくれたこと」、本気という

のは子どもたちはとてもきちつととらえています。「落ち込んだとき励ましてくれたこと」「自分を信じてくれたこと」、これが男子が感謝していることの代表例です。

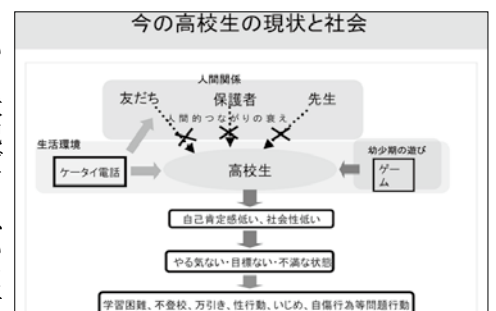
そして女子は、「仕事で忙しいのに話を聞いてくれる」「悪いことをしたときに叱ってくれたこと」、やっぱり本気だったらちゃんと子どもたちに伝わっていると思います。「どんなに苦しいときでも、そばで励ましてくれた」「一生懸命、毎日、体が疲れているのに働いてくれること」「御飯を食べて生活しているのは親のおかげだから、ふだんから感謝しています」「母の手一つで育ててくれたこと」「産んでくれたこと」「自分を守ってくれたこと」「自分のことを本気で心配してくれたこと」「学校に行かせてくれること」「お金に余裕がないのに部費とか出してくれること」「毎朝早起きしてお弁当をつくってくれること」「十六年間、毎日の世話」、直接的な表現ですが。

つらい言葉もありましたが、こんなふうに子どもたちは普段は口では言わないかもしれませんが、保護者に感謝の気持ちをもっています。

・まとめ

子どもたちの調査結果をまとめてみます。今の高校生がどうなっているのか。まず、小さいときからゲームに浸り、もう少し成長すると携帯に浸って、こういった生活環境にいます。ゲーム漬けになるのは、特に男子にその傾向が強いです。そして、携帯に浸っているのは女子にその傾向が強いのです。いつもだれかとつながっていたいというか、一人になると不安症候群みたいな感じがします。本当の親友でしたら携帯でつながっていないくても親友のはずだと私は思います。本当の意味での深い人間関係じゃない、浅い人間関係でつながれているのではないかなと思います。

子どもたちの人間関係では、友達、保護者、先生との関係がとても希薄になってきています。人間的なつながりが衰えている状況だと思っていますが、友達との人間関係は携帯でつながっていますので間接的なものになります。人は人との触れ合いの中から自己肯定感や、規範意識が生まれて、意欲がわくと思われ



そのような子どもを取巻く人間関係が今は希薄になり、その結果、自己肯定感が低く、社会性が低くなり、さらには、やる気がない、目標がない、人生に不満という状況で学習困難、不登校、万引き、性行動、いじめ、自傷行為等々の問題行動が起きているのではないかと思います。

不安社会の親子関係

「保護者」というもつと

■子どもへのアドバイスが 難しい保護者が増加

子どもの進路選択についてアドバイスが「難しい」と感じる保護者は増加して七割を超えました(73%)**(図1)** 子どもの進路選択についてアドバイスを難しいと感じるか[△]保護者[▽](全体／単一回答)。理由は「社会がどのようになっていくのか予測がつかないから」

		難しい計				その他	無回答	難しい計
		非常に難しい	やや難しい	難しいとは感じていない				
●凡例								
2005年	全体 (n=2181)	17.1%	49.5		32.0	0.3	1.1	66.5
2007年	全体 (n=1541)	17.3	52.2		29.3	0.6	0.6	69.5
2009年	全体 (n=1495)	22.9	50.2		25.2	0.9	0.7	73.1
続柄別	父親 (n= 193)	20.2	38.9		38.3	1.6	1.0	59.1
	母親 (n=1253)	23.0	52.5		23.1	0.7	0.6	75.5

(62%) がトップ。前回調査と比較して10ポイント以上の増加でした(図2)。子どもの進路選択についてアドバイスが難しいと感じる要因は何かへ保護者V(「難しいと感じる／複数回答」)。雇用環境の悪化も影響してか、フリーターやニートについての考えにも変化がみ

図 2

職業	農林業	製造業	建設業
農林業	114	63	10
農林業 (農)	114	63	10
農林業 (林)	114	63	10
農林業 (水)	114	63	10
農林業 (漁)	114	63	10
農林業 (畜)	114	63	10
農林業 (養)	114	63	10
農林業 (殖)	114	63	10
農林業 (其)	114	63	10
製造業	114	63	10
建設業	114	63	10
その他	114	63	10

られました。フリーターについて、高校生の回答を05調査と比べると、「自分はフリーターにはならないと思う」が37%↓19%と激減する一方、「就職が厳しい時代なのでフリーターになるのも仕方ない」との回答が23%↓32%に増加しています。保護者の「就職が厳しい時代なのでフリーターになるものも仕方ない」との回答は高校生の数値を上回る41%でした。

ニートについて、高校生
の考えを前回と比べると、

■保護者との会話が高校生の進路選択を前向きに

「二トになる人がいても不思議ではない」との回答が35%↓41%に増加。保護者の回答は「二トになる人がいても不思議ではない」が39%で最多となり、二トに対して受容的な傾向が見受けられました。これらはまさに時代背景を表した結果といえるのではないかと思います。この現状に対し、保護者ができることは何なのでしょう。

高卒後の進路について高
校生の75%、保護者の89%
が「話をする」と回答。進
路に関する親子の会話はお
おむね活発なようです。そ
こで、保護者とのコミュニ
ケーションによって高校生
の意識にどんな違いがある
か見ていきたいと思います。

[illegible]

「考えている」割合が94%と高く、「まったく話さない」層は53%と低くなっている。保護者との対話が高校生の考えを促す効果があるのではないだろうか。

また、進路を考える時の
気持ち聞いたところ、高
校生全体では「自分がどう
なってしまうか不安にな

る」(49%)、「自分の可能性が広がるようで、楽しい」(26%)。これを保護者と進路について話す頻度別にみると、「よく話をする」層では「楽しい」(40%)が多くなっています。一方、

「まったく話さない」層では「考えること自体がめんどうくさい」(16%)「考えてもつまらない」(10%)など考えること自体に消極的な様子がうかがえます(図3)。進路を考える時、高校生はどんな気持ちになるか。高校生V(全体／単一回答)。

■保護者のかかり方は「ちようどいい」が六割「干渉」二割

進路選択に関する保護者の態度を、高校生はどう感じているのでしょうか。「ちょうどいい」が63%と、もっとも多く、「干渉」と感じるのが23%、「無関心」は13%でした。

「ちよっうどいいい」と感じる
高校生は自分の進路を歩んでい
けそうと「思う」割合
が高く（73%）、「干渉す
ぎ」たり「無関心すぎ」た
りするとその割合が低下し
ます。保護者の態度が「ちよ
っうどいいい」状態が子ども
の将来への自信に影響してい

また、高校生にとって好ましいと思われる保護者の行動や態度の選択肢をあげ、自分の保護者にあてはまるものを高校生に選んでもらったところ、「ちょうどいい」層では、「あたたく見守ってくれる」「相談のつてくれる」「話をちゃんと聞く」「私の考えを尊重する」が「干渉」「無関心」と比べて高い割合となりました。保護者とコ

図4

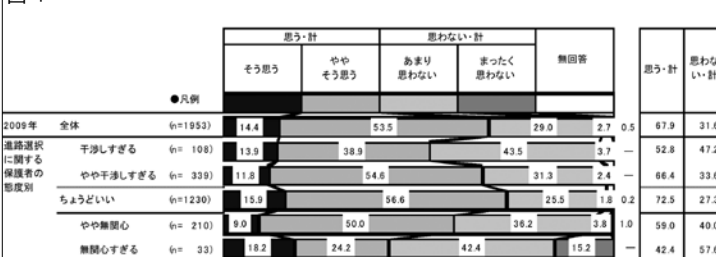
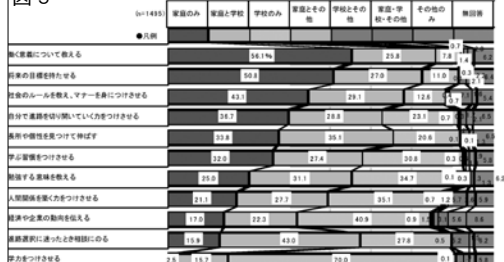


図5



れらに関わる必要を感じている保護者が多いようです。しかし、「なぜ働くか」

「働く意義を教える」のは「家庭のみ」が五割 図5にある十一項目のことを高校生にするのは「家庭」「学校」「その他」のうち誰の役割か、当てはまると思うものを保護者にすべてあげてもらい、その回答状況を分類しました。(図5 高校生に次のことをするのはこの役割かハ保護者V(全体)「家庭のみ」が半数を超えたのは「働く意義について教える」と「将来の目標をもたせる」でこれらに関わる必要を感じている保護者が多いようです。しかし、「なぜ働くか」

■進学希望の保護者の八割が進路情報収集に意欲 子どもの進路選択に関して保護者自身による具体的な情報収集の状況と今後の意向を聞いたところ、「ど

一方、子どもの職業選択の際に自身の経験から「伝えたい」ことを保護者に聞いたところ、「好きなことを仕事に」といったアドバイスに加え、「職業に関係なく働くことによつて得るものは大きい」など「働く意義」に関する記述もみられました。

というテーマについて話し合ったことが「ある」のは、高校生13%、保護者47%、「保護者の仕事の内容、楽しさや大変さについて」話している」のは、高校生45%、保護者68%と、高校生と保護者の認識にギャップが目立ちます。また、高校生に対し、話している内容を具体的に聞くと、「パソコンが壊れて大変だった」「忙しかったり不景気で大変だった」など、その日の出来事や苦労に関する会話が目立っており、仕事のやりがいや楽しさについて聞いているというコメントはそれほど多くみられませんでした。

【調査概要】

■調査方法

- 学校通しの質問紙による自記式調査
- 高校生 ホームルーム時にアンケート実施
- 保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡して依頼、実施クラスごとに学級担任が高校生・保護者アンケートをまとめ、学校ごとに回収

■調査対象

- 高校生(2年生)とその保護者
- 全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校27校

■調査期間

- 2009年9月28日(月)～10月30日(金)

■有効回答数

- 高校生1953、保護者1495

んな学校があるか調べる」(83%)、「どんな学部・学科・コースがあるか調べる」(82%)、「興味をもった学校の入試方法を調べる」(80%)が八割程度と、高い情報収集意欲がうかがえました。その理由には、「子どもと一緒に考えたいから」(67%)、「具体的な情報を知らない進路についての会話ができないから」(52%)が上位にあげられました。不透明感の増す社会において、子どもと一緒に考え、話し合うために情報収集をする保護者の姿がうかがえます。

日本の高校生を元気にする

高校生新聞® 高校生スポーツ®



■1993年10月創刊 ■タブロイド判 平均28頁 ■毎月10日発行

高校生新聞・高校生スポーツは、高校生の文化・スポーツ活動、分かりやすいニュース解説、視野を広げる進路情報、役立つ生活情報、全国の高校生の声などを満載。生きる力と知恵を育む新聞として、高校生、保護者の皆様、先生方にご愛読いただいています。



高校生のための夢探し、自分探し 夢現塾 & 校内ステップアップ進学相談会

各界で活躍する講師の講演と、生徒が希望する大学・短大・専門学校の入試相談会を校内で無料開催。

首都圏で400の高校が利用

大学情報ステーション

SP 髙スクールパートナーズグループ
高校生新聞社

〒194-0022 東京都町田市森野 1-34-10 TEL.042-724-2750
FAX.042-724-2710 <http://www.koukousei-sinbun.co.jp>

「貴方は夢を心で問い
ただしたことがあります
か？」

それはおぼろげでも構わ
ない。なりたいた自分になろ
うとして、ひたすらに己を
信じ実行して汗すること
で、目標に近づくまでのこ
の過程を、「貴方は心で感
じたことはありますか。」

「夢」というものは、あ
くまでも自分自身のイメー
ジ（想い）の一環でしかあ
りません。ゆえに人それぞ
れの感性や考えが主体とな
る行動を意味するものだと
思います。最大のメリット
は、幾つであろうが、どん
な人間であろうが、老若男
女問わず考え想うことで己
の成長が育まれることで
す。人間として生まれてき
た以上、生が果てないかぎ
り全ての人に与えられた幸
せではないでしょうか。人
は誰しもに未知なる可能性
が平等にあるものだとは私
信じます。しかしながらそ
の可能性をどう引き出し
ていいものか分からずじ
まいのまま、今日に至る大
人や子どもたちが多くいる
のが現実です。「夢を想う
きっかけ」として、実は全
ての人が夢を追い、叶えて
きているのです。例えばあ
の車が欲しい、あの試験

を受けてこの職種に就こ
う、放浪の旅行に出掛け己
を磨いてみよう、きつかけ
はちよつとした欲望から
でもいいのです。大切な
は「夢」に行き着くまでの
そのプロセスです。中には
諸事情で不遇な環境に育つ
た人もいることでしょう。

中々「夢」など想えるゆと
りなどないと感じる人のほ
うが現実味に沁みるのでは
ないのでしょいか。しかし
ながら普段の生活において
私たちは、身近な人から受
けた恩恵は「当たり前」に
思いがちです。これまで友
人、先生、ご近所の人など、
お世話になった人も少なく
ないはずでしょう。実はこ
の、恩の連鎖で血縁、親族
家族、学校、社会との仲を
育み、自分が存在している
ことも事実なのです。決し
て「夢」の押売りをするつ
もりはありませんが、多岐
に亘り、お世話になった人
たちの笑顔を思い浮かべる
ためにも「夢」という標に
自己の活力を活かしてみ
てはいかがでしょう。それ
では「夢」はどうすれば成し
遂げられるのか？前述でも
触れさせていたきました
が、「夢」はいくつになろ
うが、どんな人間であろ
うが、老若男女問わず想い、

行動ができることです。当
然のように人は皆生き方が
違いますから「夢」にも
個人差が表れます。自分の
「夢」が誰かと比べて大
なり小なり異なるにせよ否定
することはありません。自
分ならこの「夢」が叶えら

るのです。そしてそのプロ
セスの中で生まれる御縁に
よって、恩恵や己の人間性
を高める価値観を育むこと
により人は成長していくの
です。では具体的にどう行
動に移せばよいのか。やり
方は人によって様々です

シリーズ視点

『夢よ、煌け！』

～夢に終わりはない～

「夢をもって、そしてその夢が叫びますように」と、私たち
大人は子どもたちに願います。その大人たちは今、子どもた
ちは今、日々を悔いなく生きていますか？・・・夢を追い続け
ていますか？・・・今回の視点は、今も「夢」に向かっている
一人のPTAの思いをお届けします。そして、子どもたちに
一人の大人としての姿を見せている我々が、それぞれのもつ
想いを確かめ合うことに繋がればと心から願います。

れるという強い信念に基づ
いて実行することです。あ
まりにも大きな「夢」であ
ろうと言われようが躊躇す
ることはありません。その
すばらしい「夢」をイメー
ジできる貴方だからこそ実
現できるパワーをもってい

が、ここでは私が常に心掛
けて行っていることを挙げ
させていただきます。毎朝
必ず会社が始まる前に地域
の掃除を十五分ほどしてい
ます。そして道行く人に朝
の挨拶を投げかけていま
す。すると一日の始まりが

すぐく幸せになるのです。
この気持ちをもち続けたま
ま、お客様とお会いすると
不思議と話も弾み、ご契約
の方向へと繋がります。ま
た、あらゆる免状所得のた
めに毎日自習も欠かしませ
ん。週末の休みには知人の
場でアルバイトもさせてい
たいしております。就寝す
る前には必ず仏壇の前で御
経を唱えさせていただいて
おります。一日の有限の時
間を有効に使わせていただ
き、毎月ステップアップす
る目標を掲げ、到達するま
で繰り返しの毎日が続け
ています。いわゆる私の
「夢」に近づくためのなの
です。ここで私が伝えたいの
は、「夢」に近づくために、
「当たり前」のことを、無心
になつて、ちゃんとやれて
いるか！ということ。す。
日々の動きに繰り返しの自
分を置き、毎月の階段状の
目標を立てることによつ
て、「夢」へと近づくプラ
ンが出来上がるのです。そ
して大事なことは、「夢」に
到達するまでのプランを書
き綴り、できたことから一
つずつ消していくことで
す。私も受売りですが、渡
邊美樹という全国展開して
いるフランチャイズの会長
が綴っている著書に「夢に

日付を！」というのがあり
ます。ぜひ参考になる本で
すのでお読み下さい。最後
に、私の「夢」はまだまだ
始まったばかりです。二年
前に二十年続けた会社を二
企業とも倒産させてしま
いましたが、今は心機一転
新しい事業に汗しながらの
毎日です。当時の志半ばに
なつてしまった「夢」を今
一度、恩恵をいただいた周
りの方々のためにも再チャ
レンジすることに感謝の念
を抱き、誇りさえも感じま
す。そしていつか必ずそ
の「夢」に到達したときに、
次の新しい「夢」が生まれ
ることを強く心に想いなが
ら。いつまでもそんな自
分で在り続けたくと思いま
す。限られたページの中で、
個人の想いを活字にするの
は非常に偏った言葉になり
がちです。子をもつ親とし
て、一人の人間として、是
非とも互いの情報を共有し
あいましょう。御精読、あ
りがとうございました。

（株）全国公立高等学校PTA
連合会調査広報委員会副委
員長

（株）愛知県公立高等学校PTA
連合会会長 松山 栄司

平成二十二年度事業計画

I 事業方針

1 学校教育・家庭教育を振興させるための各組織・機関の充実発展

2 子どもの健全育成、安全、進路保障に関する調査研究、啓発活動

3 情報共有化に向けて広報活動の充実並びに配布物の周知徹底

4 社会状況の変化に対応した本連合会の適正なあり方検討

5 日本PTA全国協議会、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会等との連携

活動を推進するために、六月から七月にかけて地区ごとに高等学校PTA会員が一堂に会して、研究大会を開催する。

・北海道地区高等学校PTA連合会大会

六月十一日（金）・十二日（土） 苫小牧市

・東北地区高等学校PTA連合会大会

七月八日（木）・九日（金） 盛岡市

・関東地区高等学校PTA連合会大会

七月八日（木）・九日（金） 横浜市

・東京地区高等学校PTA連合会大会

七月十日（土） 千代田区

・北信越地区高等学校PTA連合会大会

七月九日（金）・十日（土） 福井市

・東海地区高等学校PTA連合会大会

六月十八日（金） 名古屋市

・近畿地区高等学校PTA連合会大会

七月三日（土）・四日（日） 大阪市

II 事業内容

1 全国大会

学校教育・家庭教育の振興、青少年の健全育成、高等学校PTAの質的向上及び情報の共有化を図るため、第六十回全国高等学校PTA連合会大会

東京大会を、二十二年八月十九日（木）～二十一日（土）の三日間にわたり、日本武道館をメイン会場にして開催する。（詳細は十二ページを参照）

2 地区大会（九地区）

各地区高等学校PTA

・中国・四国地区高等学校PTA連合会大会

七月九日（金） 鳥取市

・九州地区高等学校PTA連合会大会

六月十七日（木）・十八日（金） 佐賀市

III 全高P連の事業及び一般社団法人への移行のための準備

1 高等学校調査研究及び研究会の開催

二十二年の全国共通の調査研究テーマは「キャリア教育とPTA」である。各地区では、このテーマを踏まえて二十一年度から取り組みの準備を進めており、地区大会及び全国大会東京大会の特別第三分科会で講演やシンポジウムが開催される。

2 「子ども向上支援事業」の実施検討

昨年度まで、「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」事業を四カ年計画で行ってきたが、子どもたちを支援する人間関係が希薄であることが明確になった。その現状を踏まえ、子どもたちのメンタルヘルス向上支援を課題として、調査・研究・提案についての事業計画を検討

していく。

3 財団法人日本宝くじ協会助成事業による「薬物乱用防止パンフレット」の発行

十カ年にわたって継続して発行してきた薬物乱用防止パンフレットは、需要が大変多く、保護者・教職員から追加注文をされるほどである。予防教育こそが麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止のための最良の手段であるとして、今後ともこの冊子の発行を大切にしていく。

4 一般社団法人移行準備委員会の設立

二カ年にわたり「公益法人化準備検討委員会」を設けて本会のあり方を検討してきた。本会の事業の多くは、加盟団体・加盟団体構成員への情報提供であり、質的向上に資する研修実施であるので、公益事業ではなく共益事業である。また、その他の条件を勘案しても本会は公益法人に合わないことが明確になった。そのため、一般社団法人移行に向けて定款の変更を検討し、諸準備を進めていく。

AIU 高校生国際交流プログラム

世界へ羽ばたく
青少年を応援します



(社)全国高等学校PTA連合会 後援

AIU 高校生国際交流プログラム事務局
Tel: 03-5819-8288
http://www.highschooldiplomats.org/

MS&AD 三井住友海上

さあ来い! リスク。

GK

三井住友海上火災保険株式会社
〒104-8252
東京都中央区新川 2-27-2
www.ms-ins.com



TOKIO MARINE
NICHIDO

地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。



東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/

日本の保険は、ジャパンが変わる。



損保ジャパン

株式会社 損害保険ジャパン
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL: 03(3349)3111
ホームページアドレス http://www.sompo-japan.co.jp

各委員会報告

賠償責任保証制度

運営委員会

委員長 相川 順子

公益法人化

準備検討委員会

委員長 荻 莊 誠

平成十四年度より、充足したこの制度も、平成二十一年度は加入者が一〇〇万人を超えるまでになりました。この制度は、安価な掛け金（二〇〇円）で全国一律に高い補償を提供することを理念に運営されてきましたが、事故事案を見ますと自転車事故等による高額な補償を求められる事案も多く発生しております。

今年度の委員会では、現在の保険金支払い状況を踏まえた制度改定のは非について議論に入り、平成二十二年二月総会の場合、この制度を維持していくためには現在の掛け金では維持できない状況にあることを報告し、今後は掛け金の値上げを前提に議論に入り具体的な内容は、二十二年六月の総会において提示させていただきます。

第四回となる二月十二日の最終委員会は、本年度の調査結果のまとめと各地区シンポジウム報告、その実情を受け次年度の事業計画、引き継ぎ事項を確認しました。調査研究の考察は年々深まり、現代の子育てに関わる諸問題を根本から考えていかなければならないことを再認識しました。これを踏まえ、一層研究を発展させるために「子どものメンタルヘルス向上支援事業」の三年計画を策定しました。しかし、文部科学省の委託事業が継続できるかの問題があり、事業計画を再検討します。また、各委員から地域での実践報告があり、他地区の優れた活動を学び合い、今後の活動に役立つ情報交換ができました。最新版薬物乱用防止パンフレットについては各単Pに発送され、新入生の保護者に配布されます。さらに地区大会や全国大会東京大会においてもパンフレットを配付して、広く活用されるようにします。

健全育成委員会

委員長 深澤 資弘

進路対策委員会

委員長 小出 邦彦

第三回の進路対策委員会は、㈱リクルート社発行「キャリアアガイダンスNo.30」（高校教員向け）に掲載されている第四回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」の結果を振り返りながら、意見交換を行いました。「想像以上のすばらしいものができた」「この冊子を全国の多くの保護者に見てほしい」「今後もこの調査を続けてほしい」などの意見が続出しました。

来年度の引き継ぎ事項としては、一番目に、この調査結果を一人でも多くの保護者に伝え、現状の改善がなされるよう活用を促進していただきたい。二番目に、進路に関する研究協議を行ってほしい。三番目に、来年度も厳しい経済環境が予想されるので、就職支援のための関係機関への要請活動を行ってほしい。以上の三点を確認して、最後となりました第三回の進路対策委員会を終えま

調査広報委員会

委員長 榊原 綾子

まず、十二月に発行された会報六十五号の総括と次号六十六号の企画を行いました。全国大会沖縄大会の報告の構成について今後の方向性を話し合いました。またシリーズ「青春白書」について、求める内容が伝わるような原稿依頼書をあらためて作成することになりました。次年度への申し送り事項としては、会報の在り方を抜本的に見直す時期がきているとし、読者の側に立つて表紙のあり方、ページ数なども含め内容・構成を考え、掲載する写真や構成もさらに考慮が必要なこと。また発行時期によって見合った記事内容とすることなど、読者のニーズに合った「読んでもらえる会報作り」を目指すべく話し合いました。次年度六十七号からは全ページカラー版となります。それを最大限に生かし、会員に伝えなければならぬことと共に、子どもたちの姿をしつかりと伝えていくことを確認しました。

研修委員会

委員長 豊岡 武士

第六十回東京大会のへ取組みについて、大会テーマ「人間力を育てて作る大きな輪く家庭・学校・地域・社会心と心をつなげよう」を確認、閉会式でPTAの心を一つにする取組みとして、「第9」の合唱の検討などの報告がありました。第六十一回北海道大会について、大会テーマ「いのち輝け！人・夢・愛 ひとむきに頑張る君たちを応援したい」について説明がありました。

全国大会のあり方・もち方についての申し送り事項を検討しましたが、あり方・もち方は理事会・総会が協議し、研修委員会は全国大会の運営に関して検討していくべきだと総括しました。次年度委員会が引き継げるように、「申し送り事項」素案を副会長が六月に提案します。

第六十四回全国大会開催県は福井県であると報告され、期待と祝意を表したいと思いました。



第六十回全国高等学校PTA連合会大会東京大会が平成二十二年八月十九日(木)二十日(金)二十一日(土)の三日間日本武道館他で開催されます。

大会のメインテーマは「人間力を育てて作ろう 大きな輪」サブテーマに「家庭・学校・地域・社会 心と心をつなげよう」を掲げています。

子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、これからの子どもたちにも求められるものは人間力、生きる力、変化に対応する柔軟性であります。これらは豊かな精神性、健康、体力、知力などに裏打ちされるものです。自らを律し、協調し、また人を思いやり、感動する心、たくましく生きるために基礎となる健康や体力、自ら課題を見つ

け、主体的に学ぶことで習得していく知識や技能、これらをバランスよく育むために家庭・学校・地域・社会が連携することが必要と考えます。

大会日程は次のとおり。

◎八月十九日(木) 大会前日

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

●大会運営諸会議 (二時～一六時)

●歓迎レセプション (一七時三〇分～一九時三〇分)

◎八月二十日(金) 大会第一日

会場 日本武道館

受付 (八時三〇分～一〇時)

「オープニングアトラクション(高校生)」

●開会式・表彰式 (二〇時～二一時)

●基調講演 (二一時～二二時)

張 富士夫氏(トヨタ自動車株式会社 会長)

「昼食 アトラクション移動」

●分科会 受付

各会場にてアトラクション(高校生)

(二三時～一四時) 分科会

(二四時～一六時二〇分) 〇第一分科会 日本武道館

「学校教育とPTA」

「学校からの発信と親の思いを繋ぐPTA活動」

〇第二分科会 日本青年館

「進路指導とPTA」

「何のための進路支援? 自立への第一歩!!」

〇第三分科会 東京大学 安田講堂

「生徒指導とPTA」

『今、求められる規範意識とは何か?』

〇第四分科会 日比谷公会堂

「家庭教育とPTA」

「大丈夫!! 保護者が変われば子どもも変わる!!」

〇特別第一分科会 九段会館

「学校改革に対してのPTA全国意見交流」

「多種多様なタイプの学校とPTAの取り組み・全国意見交流」

〇特別第二分科会 早稲田大学 大隈講堂

「高校生自らの企画運営によるディスカッション」

『今、子どもは何を考えているのか? 親は何を思っているのか?』

〇特別第三分科会 昭和女子大学 人見記念講堂

「キャリア教育とPTA」

「未来を創るキャリア教育と子どもと地域を育むPTA」



東京大会では、子どもたちをめぐる諸課題に多くの人たちが連携し、知恵を絞って解決していく各地の事例や取り組みを紹介し、研究討議を行います。大会が人間力を育てるネットワークの大きな輪になるきっかけになればと目下諸準備を進めています。

◎八月二十一日(土) 大会第二日

会場 日本武道館

受付 (八時三〇分～一〇時)

「アトラクション(高校生)」

●記念講演 (二〇時～二一時)

木原雅子氏(京都大学大学院医学研究科 准教授)

●閉会式 (二一時～二二時)

大会宣言、次期開催県挨拶

クロージングアトラクションでは参加の皆さん全員で歌を歌う準備をしています。

シンボルマークは日本の中心地として躍動を続け、人々の希望と夢を育むTokyoの姿を高校生が具現化したもの、ポスターには江戸の情緒をこめました。